

令和7年1月15日

令和6年度 松山デザイナー専門学校
学校関係者評価委員会報告書

学校法人松山ビジネスカレッジ 松山デザイナー専門学校 学校関係者評価委員会は「令和6年度自己評価」結果を基に、学校関係者評価を行いました。その結果を以下のとおり報告いたします。

1. 令和6年度学校関係者評価委員会

委員 平山 誠 (株式会社アトリエき・な・こ 代表取締役)
池内 俊理 (株式会社ティーンズファクトリー マネージャー)
中谷 恭治 (愛媛県情報サービス産業協議会 副会長)
白石 浩人 (愛媛信用金庫 地域事業振興部推進役)
峯山 典子 (ファッションクリエイター学科 在校生保護者)
川崎 加奈子 (ファッションビジネス学科 在校生保護者)
三好 涼子 (Webクリエイター学科 在校生保護者)
豊田 響子 (松山ビジネスカレッジ クリエイティブ校 卒業生)
松田 弘子 (松山女学院専門学校 卒業生)
藤澤 渚十 (Webクリエイター学科 卒業生)

敬称略

教職員 松岡 由紀子 (学校法人松山ビジネスカレッジ 常務理事)
室 利幸 (松山デザイナー専門学校 校長)
重信 克也 (学校法人松山ビジネスカレッジ 管理本部長)
大野 幸美 (ファッションクリエイター学科 学科長・ファッションビジネス学科 学科長)
高橋 良昌 (Webクリエイター学科 学科長)
東田 由美子 (学校法人松山ビジネスカレッジ 管理本部 教務課長)

2. 実施内容

開会、出席者紹介、校長挨拶
自己評価報告 (1) 教育理念・目標
(2) 学校運営
(3) 教育活動
(4) 学修成果
(5) 学生支援
(6) 教育環境

- (7) 学生の受入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献

3. 自己評価報告に関する補足説明

<教育理念・目標>

- ・学校の理念・目標等に関しては、入学式後に開催する保護者会にて説明を行い、また参加出来ない保護者向けには HP や SNS を活用して周知を行っている。
状況に応じて、個別に対応し連携を図っている。

<学校運営>

- ・教務及び財務等の組織整備などの意思決定システムについては、月 1 回の月例会議及び学科長会議において、意見交換や情報共有を図っている。

<教育活動>

- ・キャリアの長い教員ほど現場との格差が生じてくるので、外部セミナーなどに積極的に参加し、スキルアップも含め格差の解消に努めている。
- ・専門性の高い専任教員の確保に向け、今後も継続して取り組む。

<学修成果>

- ・退学率に関しては、月 1 回開催の月例会議において報告し、目標との乖離があれば改善策の検討を行っている。
- ・松山女学院専門学校時代からの卒業生の情報収集が課題であるが、令和 4 年以降「松山デザイナー専門学校」となってからの卒業後のキャリア等の情報収集については、体制整備に努めている。
- ・教育活動の改善については、外部より業界に精通した方々にカリキュラム会議に参加して頂き意見交換を行い、より実践的な職業教育の充実に努めている。

<学生支援>

- ・学生相談及び生活面でのサポートに関しては、教員及び保護者と連携して支援体制を図っている。
- ・卒業生への支援体制については、今後システムを構築して整備に努めていきたい。

<教育環境>

- ・インターシップや海外研修、また 3 月実施予定の東京研修等を通じて、より実践的な学びの場を経験出来るよう、今後も継続していく。

<学生の受入れ募集>

- ・昨年10月に新駅舎となったJR松山駅からの視認性を活かし、新たな懸垂幕の設置を検討することやWebやSNSを活用した情報発信等により、学校の認知度の向上を図っていく。

4. 学校関係者評価（意見交換、質疑応答）

（委員からのご意見）

- ・毎年参加させて頂いており特にはありませんが、学生が伸び伸びと学んでいる姿が見受けられる。

（委員からのご意見）

- ・インターンシップで学生と関わらせて頂いていますが、実践的な学びを大切にすることで就職率の向上や、働き方への取り組みに繋げて欲しい。

（委員からのご意見）

- ・インターンシップから雇用に繋がる傾向は日本では薄いように思われる。
- ・世間的には人手不足である。しかしながら思うように職に就けない現実もある。卒業生とのネットワークを使って先輩・後輩を繋げて、卒業後でも学校に相談できる窓口を作ってはどうか。そのような環境があれば親も安心してくれる。

（委員からのご質問）

- ・どのような資格試験を受けていて、合格率はどのようなのか。
- ・韓国研修は、どのような内容のものであったのか。

（回答）

- ・資格試験については、作品制作の為の基礎的知識に関わる資格試験を基本に受験している。合格率は各主催団体から発表される全国平均をほぼ維持している。

（回答）

- ・韓国の専門学校では、日本のファッションに関する話題や松山の情報を伝達した。日本に興味のある学生が多く、思った以上に学生同士のコミュニケーションが図れた。
- ・互いの民族衣装（浴衣とチマチョゴリ）の着せ合わせ
- ・2月に開催する松山コレクションに向けて衣装素材の調達やポップアップショップの仕入れ、またスタイリングショーの材料調達などもおこなった。
- ・今後も韓国研修の継続を考えている。

（回答）

- ・韓国は美容大国であり、東大門ではナイトバイイングも体験出来る。松山からは直行便もあり近い国である。

また、MOU 協定を締結した「ソウルファッション職業専門学校」の卒業生は、世界のファッション業界で活躍している人材を輩出しており、国の支援もあり大卒と同じ資格が取れる。韓国研修に参加した学生は、よりレベルの高い作品作りに意識が変わった。今後もソウルファッション職業専門学校との交流を深めることを継続していきたい。

(委員からのご意見)

- ・ 県外への進学を希望していたが、東京や大阪に行かなくても、大阪から講師の先生が来て下さり、様々なことを学ぶことが出来る事から、この学校を選んだ。子供も楽しく学んでいる。
- ・ 一粒萬倍の舞台も観に行き、ステージ上での先輩の作品をみて憧れも持ち、今後の衣装制作に意欲を持っている。
- ・ 就職に関して本人の目標もあるが、目的意識をもった教員の方の指導で、視野が拡がり大変有難く思っている。

(委員からのご意見)

- ・ 内気な性格の子供であったが、専門学校に入学して変わった。
- ・ 海外研修にもあまり興味はなかったが、研修に参加したことで刺激をもらったようで変化を感じる。
- ・ 就職も決まり、周りの影響もあり、何かを作ることもしなかった子供が、目標に向かって作品に取り組んでいる姿勢に成長を感じる。

(委員のご意見)

- ・ 校内見学をして、ファッションの衣装制作を見てとても感心した。
- ・ コロナによりIT化が進み、Web業界はこれから注目される業界でもあるので、宜しくご指導お願いします。

(委員からのご意見)

- ・ 在学中は、他の学科の様子を見たことがなく新鮮に思えた。

(委員からのご意見)

- ・ 韓国研修など、私が在学中になかった取り組みがあつて羨ましく思った。
- ・ 1人に1台のミシンが用意されており、施設の充実も羨ましい。

(委員からのご意見)

- ・ 1人1台のミシンで、自分たちが好きなことを、伸び伸びと行なっている。社会人になってからの糧になると思う。
- ・ 学生のうちに沢山の経験をして欲しい。

以上